

障害者サービス担当職員& 委員1年目の今

2017年3月に本学の修士課程を修了し、4月から兵庫県の西宮市視覚障害者図書館に勤務しています。普段は視覚障害のある方を主な対象に、録音図書(DAISY、カセットテープ)や点字図書の貸出、読書相談(レファレンス)、図書製作の窓口などを務めています。

まだ1年目の新米ですが、在学中にお世話になった図書館関係者の方からお声掛けいただき、6月からは日本図書館協会障害者サービス委員会の関西委員も兼任しています。

どういう活動をしているのかと言うと、主には月1回の委員会(関東関西各12回、合同1回)に出席し、障害者サービスの現状や、催物など事業の議題について話し合ったりしています。ベテランの方々には『図書館実践シリーズ』の執筆、公共図書館での障害者サービス研修の講師などもされています。委員の中には視覚障害や聴覚障害のある方もおられるので、議事録はWordだけでなくtextデータにしたり、会議に毎回パソコンテイクを導入するなどの配慮が必要です。私も最近では議事録の作成や、パソコンテイクに入らせていただけるようになりました。

そして2017年度の第103回全国図書館大会(公益社団法人日本図書館協会主催)は、東京で10/12~13に開催されたのですが、今年度の障害者サービス分科会は10/13の午前・午後ともに関西が担当することが決まっていたので、各講師への依頼、原稿の執筆、配布資料の別途作成など、夏から秋にかけて大忙しでした。私も大会当日は、東京へ足を運び、会場設営などを務めました。午前の分科会「ディスレクシアなど学習障害を含む発達障害者・児への図書館サービス」も普段から職場で慣れ親しんでいる内容でしたし、午後の分科会は「LLブックやLL版利用案内を中心とした知的障害者への図書館サービス」で、私は在学時に、LLブックという知的障害や、自閉症などの発達障害のある人に向けて読みやすく製作された本のことを研究していたこともあり、それぞれの最新状況が聴けるという非常に勉強になる会でした。大会時には発表スライドの操作、質疑応答の記録作成を行い、帰宅後は年度内に発行される大会記録のまとめや校正を行い、1月末ようやく大会に関する全ての仕事が終わりました。

ですが、委員の仕事はこれで終わりではありません。国内では障害者サービスに関する様々な講演が毎年開催されています。そこで話題となった課題などを、委員会のメーリングリストを通して日々情報共有することも委員の大切な仕事です。その内容が委員会で議題として取り上げられることもあるので、常に障害者サービスの動向を情報収集する必要があります。「障害者サービスとは、誰か特定の人に特別なサービスをすることではない」と私は委員の方から教わりました。誰もが図書館を利用し情報を得られる環境を作るには、施設と資料(サービス含む)の基礎的整備が不可欠です。利用者が図書館の利用に障壁を感じることがないように合理的配慮を意識し、障害者サービスの担当職員として、そして委員としてこれからも頑張りたいと思います。

(山田 友香 人間文化研究科人間文化専攻修士
西宮市視覚障害者図書館司書)

製本技術講習会

11月18日(土)に「図書館情報資源概論」の受講生対象の製本技術講習会を開催しました。長年ご担当された藤原先生(ふじわら工芸社)から講師を引き継ぎ、今年度は基本の内容はそのままに1.三ツ目綴じ、2.くるみ製本、3.四ツ目綴じ、4.朱印帖(折本)の4種類の製本を行ないました。

三ツ目綴じは、最も基本的な製本です。重なった紙を半分に折り、その折り目に3ヶ所の穴を開けて糸で綴じます。極めてシンプルですが、パンフレットや雑誌の製本にも活用できます。

くるみ製本は、表紙と中身を別々に作り、最後に両方を合わせる製本方法で、現代に流通している本(雑誌をのぞく)は、文庫本もハードカバーも、基本的にこの方法で作られています。受講生は自分自身で製本することで、本の構造や壊れやすいポイントを理解でき、新たな発見があったことだと思います。例えば、本の背の上下にしま模様の飾りがついていることがあります。これは花布(花切れ、端布などとも表記)と呼ばれ、元々は補強のために糸を編んで本文に綴じ付けていたのですが、次第に古布が貼り付けられるようになり、今では単なる装飾品として残っています。花布のしま模様は、糸で編んでいた柄の名残なのです。



表紙に貼るクロス(布)のノリ付け作業

四ツ目綴じと朱印帖は、どちらも和装本の製本のことです。和本は綴じられている糸が良く切れていることがありますが、本文の紙を傷めることがないように先に糸が切れ、糸が切れたら綴じ直せば良いという昔の知恵だと言われています。そのため、和本を所蔵している図書館に勤めると、四ツ目綴じを行なう機会は意外と多いです。

朱印帖は糸を一切用いず、ノリだけで製本します。他の3つの製本と比べると簡単だったという受講生の声が多かったです。

今回の出来上がり作品は、すべて持ち帰っていただきました。ノートやメモ帳代わりにご活用いただけると嬉しいです。



左から朱印帖、くるみ製本、四ツ目綴じ

(守谷 静華 本学図書館情報センター図書館司書)